
星屑とお月さま

春日ナオ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

星屑とお月さま

【Nコード】

N6389Y

【作者名】

春日ナオ

【あらすじ】

ダメダメな少女と学園一の秀才君のお話。

「『道よ、目的の地を開け』！！」

素早く移動魔法を詠唱した。

上級者の魔法ではないので何処か頼りないがなんとか私ぐらいならば通れる空間の穴ができた。

私は躊躇せず、その穴に入った。

「……おい」

「ま、間に合った……」

なんとか教室に辿り着いたようだ。

私はふうとため息をついた。

「おい」

「へ？」

学園一の秀才、ナイト・トーガルトがかなり不機嫌な顔して私を見ていた。

「人の机に何してくれんだ」

「え……」

私は恐る恐るトーガルトの机を見る。それは…

見事なまでに破壊されていた。

どうやら私が作った空間の穴が未熟な魔法によって安定しなかったらしい。

その結果穴から放出されるエネルギーによって机が大破。

トーガルトの視線が痛い。いやそれよりも周囲からの視線がもっと痛い！！特に女子！！！！

「ご、ごめんなさい！！！」

私は慌てて自分の机を持ちトーガルトの大破した机と交換した。それと同時にマンガローム先生が教室に入ってきた。そして私と大破した机を見て一瞬で鬼の顔になる。

「ユーグ、説明なさい」

せっかく授業間に合ったのに…。

私は肩を落として怒られる覚悟をした。

「これだから一般人は嫌なんです。ユーグあなたは罰として今日学園内に入ることを禁止します」

私が一通り説明するとマンガローム先生は吐き捨てるように言った。周りは私見てクスクスと笑っていた。

自分の責任とはいえさすがに泣きたくなつた私は頭を下げると一目散に教室を飛び出した。

離れていく教室。なのに笑い声が大きくなった。

それを聞いて私は我慢していた涙がボロボロと流れてきた。

寮には帰らず、私は学園の近くにある建物にいた。

「スーア、ほらお茶」

「ありがとう…」

私はサイト・ホキワットからコップを受け取る。

ここは学園直営の薬草園の管理室。

その管理室の室長がサイトさん。とても優しい男の人。

「またあのクソババアに言われたのか？」

「今回は自分のせいなの……」

さっきのことを思うとなおさら涙が出ていた。

そんな私の頭をサイトさんは慰めるようになでる。

「たく……。ほら教科書貸せ。俺が代わりに今日の範囲教えてやる」

「ありがとう、サイトさん……」

いつも私はサイトさんに授業をしてもらう。

この人はこの学園の中でもある程度の高い地位にいるが私を一般人だからといって見下したりはしない。

この学園には普通、貴族やお金持ちの魔力持ちしか入学できない。しかしごく稀に存在する一般人で強力な魔力を持つ者には特別に入学を許可している。

私はたまたま出会った師匠によって推薦され、この学園に入学したが、蓋を開けてみれば魔力をコントロールできないただの落ちこぼれ。

「……まーた悪いことでも考えてるのか？ほら、集中」
「はい……」

入学して早5ヶ月。

私はこの学園でやっていけるのだろうか…。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6389y/>

星屑とお月さま

2011年11月19日14時46分発行